

〈特集：公衆衛生情報ネットワーク・システムの構築をめざして〉

保健所を中心とした脳卒中退院患者情報管理伝達システム

後 藤 敦

1. はじめに

脳卒中や癌などの患者登録情報システムは厚生省の指導もあり、各地で行われているが、これらシステムの多くは患者情報を蓄積し、疫学的特性を把握して疾患対策に役立てるなどを主な目的としていると考えられる。

しかし、地方自治体、特に市町村においては疫学的特性の把握も必要であるが、その地域の対象者に対してより直接的な保健・医療・福祉サービスが円滑に提供出来ることが対象者の QOL (Quality of Life) を保持増進するために重要と考えられる。特に、医療機関を退院した脳卒中患者の在宅ケアは「寝たきり 0 作戦」実践の為に行政的にも重要である。また、保健・医療・福祉サービスを「必要とする人に、必要としているものを、必要なだけ」出来るだけ迅速に提供するために「市町村高齢者サービス調整チーム」に退院患者情報が速やかに伝達されることが必要条件であると考えられる。しかし、これらの患者情報は主に医療機関が所有しているために、実際にサービスを提供する市町村担当者側での対象者の把握が困難な状態にあるのが一般的である。

このようなことから市町村における「高齢者サービス調整チーム」の有効な運用と地域における保健・医療・福祉サービスの迅速な対応を目的に脳卒中患者退院後在家ケア管理情報システム(脳卒中情報システム)の構築をモデルとして、保健所を中心とした脳卒中退院患者情報管理伝達システムの構築を行った。

2. システム構築の考え方

脳卒中退院患者の日常生活動作(ADL)は、受けた在宅ケアの質と量に左右される場合が間々あと推察さ

(埼玉県衛生研究所)

れる。従って、個々の退院患者に適した在宅ケアを提供すると共に、患者家族の負担を軽減するなどのサービスの提供を円滑に進めるためには医療機関、保健所、市町村、ホームヘルパー間の情報の流れを迅速にし、サービス意志決定機関である「市町村高齢者サービス調整チーム」などに質の高い情報を円滑に提供すると共にプライバシー保護を十分考慮した情報の管理と運用が必要であると考えられる。従って、情報の管理は保健所管内の各市町村のヘルスマップや財政力などの地域特性を考慮した結果、患者情報を一元化し保健所一カ所で管理することとした。

次に、退院患者の実態を継続的且つ早期に把握し、その退院患者に最も適したサービスの提供を可能とするために、このシステムの情報管理に用いるコンピュータプログラムを自主開発し、小回りの利くものとした。

また、医療機関には退院患者情報を還元し、治療方針等の参考に供すると共に登録データを解析・評価し、地域保健医療の向上に役立つシステムとした。

さらに、平成 6 年 7 月に厚生省が「脳卒中情報システム事業」の実施を促進するために本システムと類似のシステムを例示した。中でも医療機関からの情報提供率を高めるために情報提供に係る報償は診療報酬で対応できることになり、本システムの一層の充実が期待される。

3. システム開発の経緯

東松山保健所は埼玉県のほぼ中央に位置する 1 市 5 町 3 村を管轄（医療法による二次医療圏に一致）し、管内人口は約 23 万人である。管内の老人人口割合は約 12% であるが、20% を超えている自治体もある。この様な地域特性をふまえ、埼玉県東松山保健所では管内市町村、医師会、福祉関係者などからなる保健所保健・福祉サービス調整推進会議を平成元年度に設置し、「処

遇困難な高齢在宅者ケアシステム」構築の研究を開始した、その結果

- (1) 市町村高齢者サービス調整チームの設置と運用
- (2) 保健・医療・福祉における情報の受理・伝達のシステム化
- (3) 保健・福祉サービスメニューの充実

の三つの課題があることを明らかにした。この事から、管内の地域特性を考慮して「脳卒中情報システム」を構築することになった。

平成3年度は関係機関との調整を行うと共に、管内の基幹的病院である3カ所の協力医療機関（指定医療機関）（平成5年度から4カ所）との調整と協力医療機関からの脳卒中退院患者数などの調査を行い、平成4年度から「脳卒中情報システム」の開発を開始した。

この様な経過の基に、東松山保健所からの協力要請に対し平成4年度から衛生研究所が支援する事となった。

脳卒中患者の発生

↓ 受療

医療機関

訪問調査票
の提供

退院連絡票（項目の記入）
氏名、住所、生年月日、電話番号
医療機関名、診断名、発症・入退院年月日
初診・退院時の状況等

保健所

情報の入出力管理
各市町村への連絡調整

訪問調査票
の送付

初回訪問調査票の送付（氏名等記入済み）
家族、家屋の状況
受療状況、A D L、介護者の状況等

サービスの
検討結果を
送付

蓄積データ
の還元

継続訪問調査票の送付
(氏名、家族、家屋の状況等記入済み)
受療状況、A D L、介護者の状況等

市町村保健婦

訪問による情報収集、現状把握

↑ ↓

高齢者サービス調整チーム

患者を訪問し、訪問調査票に記入
訪問結果より今後の処遇を検討
適切なサービスの選択・提供

機能訓練
老健施設デイケア
訪問指導・看護
デイサービス
日常生活用具給付
ホームヘルパー派遣

↑ ↓

在宅の脳卒中患者

図1 患者情報の流れ、調査票の作成・記入及び情報の入力

4. 衛生研究所の役割と支援

衛生研究所では保健所等が主体となる調査や事業について、出来るだけ協力・支援する立場から「連絡調整会議」などを開催し衛生研究所の役割と支援できる内容について次の項目について合意し、協力・支援する事とした。

- (1) システム構築計画立案への参加
- (2) 退院連絡票、訪問調査票等作成への参加
- (3) コンピュータプログラム開発とメンテナンス
- (4) 関係機関連絡調整会議等への参加
- (5) 登録データ解析への参加
- (6) システムの評価への参加

平成4年度にシステム構築とデータベース構築の為の先進地見学を保健所と合同で行いながら、図1に示す保健所を中心とした保健情報管理・伝達システムの構築を行った。

このシステムで特徴的なのは退院元医療機関に「市町村高齢者サービス調整チーム」で検討された保健・福祉サービスの結果が必ず伝達されるシステムしたことである。

5. システムの概要と退院患者情報の流れ

本システムに登録する対象者の地理的範囲は、東松山保健所管内居住者とした。この範囲は医療法による二次医療圏と一致する。登録時期は、退院患者の在宅ケアが主たる目的であるので協力医療機関退院時とし、登録者は平成5年3月までは退院患者のうち本システムの利用を希望した者のみであったが、現在は転院、死亡退院も含め退院患者全員である。

退院患者情報の流れの概略（図1参照）は次の通りである。

(1) 医療機関

脳卒中患者の退院時に指定医療機関の看護婦長などが退院患者および家族に「本システム」の説明を行い、退院連絡票の項目（図2参照）を記入し、保健所に送付する。

(2) 保健所

①病院から連絡があった場合

保健所は退院連絡票をもとに、患者の登録を行う。（患者全員登録）「本システム」の利用を希望する患

者については退院連絡票と退院連絡票の情報を3枚複写用紙にプリントした初回訪問調査票（図3参照）を市町村保健婦に送付する。（以下はシステム利用希望の患者のみ）

②市町村から訪問調査票を回収した場合

回収した訪問調査票の内容は、新たな情報として登録。

③次回の訪問を市町村へ連絡する場合

前回の訪問調査項目の内容をプリントした継続訪問調査票を市町村保健婦に送付する。

④情報の還元

医療機関に対しては、市町村から訪問調査票を回収毎にその写しを提供する。市町村に対しては、定期的に蓄積データをプリントした調査票及び一覧表を送付する。

⑤市町村保健婦及び高齢者サービス調整チーム

初回または継続の訪問調査票をもとに市町村保健婦（保健所保健婦）とホームヘルパーは同伴訪問を行い情報の収集、状況の把握を行い訪問調査票に記入する。訪問した結果をもとに市町村高齢者サービス調整チームで今後のサービス提供の内容等を検討し、訪問調査票と高齢者サービス調整チーム検討結果票を保健所に送付する。

6. システムの稼働状況

協力医療機関等の理解も毎年深まり、登録患者数が漸増傾向にある。平成6年度の登録患者数は未確定だが約140名と見込まれている。しかし、協力医療機関の存在する周辺の市町村の者が多い傾向にある。

また、初回訪問までの期間は、短縮されつつあり平成5年度では、退院後2ヶ月以内までに約7割の患者に初回訪問がなされた。

7. 今後の課題

- (1) システムの評価
- (2) 「脳卒中情報システム」実施医療圏若しくは市町村の拡大をはかる
- (3) 経時的な退院患者ケアの評価（ADL、QOLなど）を行い保健的・福祉的患者サービスの充実を図る
- (4) 将来的には疫学的尺度が測定できるシステムに発展させる

160205

該当する番号を○で囲んでください。		患者番号 6 1						
医療機関名				主 治 医				
記載年月日 平成 年 月 日				記 入 者				
フリガナ		男	明治・大正・昭和・平成			年 齢		
患者氏名		女	年 月 日 生					
現 住 所				電話 ()				
診 1. 脳梗塞(脳血栓、脳塞栓) 2. 脳出血 断 3. クモ膜下出血 4. 分類不能の脳卒中発作 名 0. その他の病名 ()		病歴番号 発症年月日 昭和・平成 年 月 日 午前・午後 時頃 発症不明 入院年月日 昭和・平成 年 月 日 退院年月日 平成 年 月 日						
既 往 症		1.なし 2.高血圧 3.心臓病 4.糖尿病 5.腎臓病 0.その他の病気() 9.不明						
入 院	頭 痛	1.なし 2.軽い 3.中程度 4.激しい 9.不明						
	嘔 吐	1.なし 2.あり 9.不明						
	言語障害	1.なし 2.あり 9.不明						
時 状 況	意識障害	1.なし		意識障害の程度		意識障害の期間		
		2.あり(右の欄に記入)		1.刺激しても覚醒せず 2.刺激すると覚醒 3.刺激しないでも覚醒 9.不明	1. 24時間未満 2. 24時間以上 9. 不明			
		9.不明						
		運動障害		1.なし 2.右片麻痺 3.左片麻痺 4.両側麻痺 0.その他 9.不明				
初発再発		1.初発 2.再発(初発:昭和・平成 年 月 日・時期不明) 9.不明						
本人の訪問希望 1.希望あり 2.希望なし 9.不明								
入院中のリハビリ 1.なし 2.P.T 3.O.T 4.S.T 0.その他() 9.不明 [] 病院 年 月 日 ~ 年 月 日								

図2 退院連絡票

初回訪問記録-1

記入者		保健所番号							
今回訪問日 平成 年 月 日		(前回訪問日 平成 年 月 日)							
患者番号		入院医療機関							
フリガナ 氏名		病歴番号							
生年月日	性別	入院時診断名							
住所		発症年月日							
電話番号		入院年月日							
		退院年月日							
		既往症							
同居の家族状況	氏名	生年月日	本人から 見た続柄	職業	健康状態				
脳卒中に関する現在の受診状況	医療機関	主治医()							
	受診間隔	1.定期的(年回)	2.不定期	3.受診なし	4.入院中	9.不明			
	受診方法	1.通院	2.家族が薬を取りに行く	3.症状があるときのみ受診	4.往診	5.他の病気	6.放置	7.その他	9.不明
	保険の種類	1.国保	2.老保	3.社保	4.生保	5.退職者	9.不明		
訪問時血圧	~	mmHg	(前回の血圧値	~	mmHg)				
寝たきり度	ランク	1.J1	2.J2	3.A1	4.A2	5.B1	6.B2	7.C1	8.C2
家屋状況	専用居室	日当たり	整理	臭氣	ベット	トイレ			
	1.あり	1.良い	1.良い	1.なし	1.あり	1.洋式			
	2.なし	2.悪い	2.悪い	2.あり	2.なし	2.和式			
	9.不明	9.不明	9.不明	9.不明	9.不明	9.不明			

図3 初回訪問調査票

参考文献

- 1) 石川久美子, 横関身江, 飯田美恵子, 他: 脳卒中退院患者のための在宅ケアのシステム化に関する研究, 第3回日本疫学会総会講演集, 341-342, 1993
- 2) 鈴木章, 渕上博司, 後藤敦, 他: 在宅ケア事業支援コンピュータープログラムの開発, 第3回日本疫学会総会講演集, 343-344, 1993
- 3) 鈴木章, 渕上博司, 後藤敦, 他: 脳卒中退院患者のための在宅ケア事業支援システムの開発, 第52回日本公衆衛生学会総会抄録集, 546, 1993
- 4) 埼玉県東松山保健所: 地域保健対策推進事業「脳卒中患者退院後管理システム事業報告書」, 1994
- 5) 埼玉県東松山保健所: 平成5年度脳卒中情報システム事業報告書, 1994